

[成果情報名]バンカーシートを用いた春期(2~6月)イチゴのハダニ類防除技術

[要約]施設イチゴにおける2月下旬のバンカーシートを用いたミヤコカブリダニ5,000頭/10a・1回放飼は、慣行の2,500頭/10a・3回放飼と同等の防除効果が得られる。

[キーワード]ハダニ類、バンカーシート、ミヤコカブリダニ、イチゴ、密度抑制

[担当]資源循環研究室、病害虫管理グループ

[代表連絡先]電話 083-927-7037

[研究所名]山口県農林総合技術センター

[分類]研究成果情報

[背景・ねらい]

本県で推進している「かおり野」は長期どり(6月頃まで収穫)が可能な品種であるが、春期(2~6月)はアザミウマやハダニ類の発生が問題となる。しかし、薬剤散布回数的大幅な増加や従来の化学農薬削減を目的とした天敵利用防除は、労力やコストに問題がある。

そこで、ミヤコカブリダニを低コストかつ安定的に定着させることが可能なバンカーシートを用い、春期におけるハダニ類の防除効果を確認する。

[成果の内容・特徴]

1. バンカーシートを用いたミヤコカブリダニパック剤5,000頭/10a・1回放飼・春設置は、慣行の同剤2,500頭/10a・3回放飼と同等の防除効果が認められる(表1、2)。
2. ミヤコカブリダニパック剤+バンカーシートの設置時期は、春設置の方が前年秋設置より防除効果が高い。
3. ミヤコカブリダニパック剤+バンカーシートの1回放飼は、慣行の化学農薬2回防除及び3回放飼より防除回数が少なく、労力の削減に繋がる。
4. 2~6月の農薬・資材費は、バンカーシートを用いたミヤコカブリダニ放飼が約40千円/10aで、慣行の3回放飼の約32千円/10a、慣行化学農薬2回散布の約5千円より高いが、防除作業と収穫・調製作業の競合が回避できる。

[成果の活用面・留意点]

1. イチゴの長期取り栽培における春期のハダニ類の省力的密度抑制に活用できる。
2. 放飼前にハダニ類が発生している場合は、ミヤコカブリダニに影響の少ない殺ダニ剤等を用いてハダニ類の密度を下げ、薬剤散布の影響が無くなるまで日数を開けた後に、バンカーシートを用いてミヤコカブリダニを放飼する。
3. 放飼後にハダニ類が多発した場合は、ミヤコカブリダニに影響の少ない殺ダニ剤等を用いてハダニ類の密度を低下させる。

[具体的データ]

表1 カンザワハダニ雌成虫数の推移

区名	調査日												
	2/25	3/4	3/14	3/23	3/30	4/7	4/14	4/21	4/28	5/6	5/11	5/19	5/25
ミヤコ+ハンカシート区(本年春設置)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ミヤコ+ハンカシート区(前年秋設置)	2	0	0	3	3	1	11	37	92	24	24	0	1
ミヤコ慣行区(3回放飼)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
慣行化学防除区	0	0	0	0	6	8	1	72	62	38	36	348	10

注：3複葉×20株当たり虫数

ミヤコ+ハンカシート区(本年春設置)は2/25に5,000頭/10a、ミヤコ+ハンカシート区(前年秋設置)は前年10/26に5,000頭/10a、ミヤコ慣行区(3回放飼)は2/25,3/4,14にそれぞれ2,500頭/10aずつ放飼。慣行化学防除区は5/23にマイトコーネ2,000倍を散布。

表2 ミヤコカブリダニ数の推移

区名	調査日												
	2/25	3/4	3/14	3/23	3/30	4/7	4/14	4/21	4/28	5/6	5/11	5/19	5/25
ミヤコ+ハンカシート区(本年春設置)	0	0	0	0	0	2	8	5	9	0	2	0	0
ミヤコ+ハンカシート区(前年秋設置)	0	0	0	1	1	2	2	18	17	4	2	7	1
ミヤコ慣行区(3回放飼)	0	0	0	4	0	0	2	3	9	0	6	2	3

注：3複葉×20株当たり虫数

(岩本哲弥)

[その他]

研究課題名：イチゴの長期どりに対応した春期(2~6月)の害虫防除技術体系の確立

予算区分：競争的資金(農食事業)

研究期間：2014~2016年度

研究担当者：岩本哲弥、河村俊和、本田善之